

明治6年(1873)1月3日、山梨県北巨摩郡韋崎町に生まれる。

明治25年(1892)慶應義塾大学理

財科を卒業、翌年三井銀行に就職。

明治40年(1907)1月三井銀行を

辞し、10月に箕面有馬電気軌道会

社(後の阪急電鉄会社)設立と同

時に専務取締役となつた。以後、

鉄道事業を行う一方で、沿線の住

宅開発・行楽施設の設置、ターミ

ナル・デパートを開設するなど、非常に先駆的な試みを

数多く行い、同社を発展させた。

小林の経営方針は、鉄道経営を軌道にのせるためには沿線を住宅地として開発し、利用客数の安定化をはかることが不可欠であるとするものであった。明治41年、梅田・宝塚、箕面間の鉄道敷設工事と並行して、池田室町の住宅地開発に着手した。この池田住宅は、土地分譲・地所家屋販売にあたり、日本で最初の月賦販売方式を採用したこと、また、日清・日露戦争のあおりをうけた大阪市の人口が、日清戦争前の3倍に増加し、居住環境が悪化してきた時期であったということも幸いして成功を



おさめることができた。この池田室町の成功によって、この後、桜井(明治44年)、豊中(大正3年)、岡本(大正10年)と矢継ぎ早に住宅地の開発が行なわれた。

箕面有馬電気軌道会社が開発した住宅地は、住民互選によって役員を選出する、米・薪炭など日用品の協同購買組合、および住民の親睦を深めるための俱楽部が設置されていたという特色を持つ。ただ、これら協同購買組合・俱楽部は、会社の積極的な維持管理にもかかわらず、住民の利用が十分になされず、閉鎖された。

小林は住宅開発の他、乗客誘致のための箕面動物園の開園(明治43年)、宝塚新温泉に宝塚少女歌劇(大正2年)を誕生させるなど、沿線の行楽施設の設置もあわせて行った。

明治2年、阪神急行会社の社長に就任する一方で、東宝映画会社を創設するなど、興行界にも乗り出していった。昭和15年、第二次近衛内閣の商工大臣、昭和16年、貴族院勅選議員。第二次世界大戦後、昭和20年10月には、幣原内閣の国務大臣兼復興院総裁となつたが、翌1946年公職追放となつた。追放解除後、東宝社長、宝塚音楽学校校長、日本経営者連盟理事等をつとめ、昭和32年1月25日に病没した。享年84歳であった。